

おでかけウォッチャー訪日版を用いた 福岡県柳川市のインバウンド動向分析

秋野 隆士

はじめに

2025年の全国の訪日外客数は、現時点で1月～11月の累計で3,906万5,600人となり、通年で過去最高を更新する見込みであり、九州の外国人入国者数も1月～11月までの累計（速報ベース）で523万人となり、通年で過去最高を更新することが確実視されている。全国的な活況の一方、観光地ごとに多種多様な課題も生じている。課題の1つとして、外国人観光客の流入は一定数あるものの、観光地内の特定の主要観光スポットにのみ集中することで周辺エリアへの面的な周遊が進まず、短時間で別の地域に移動してしまうことが挙げられる。本レポートでは、観光地の来訪・周遊の実態や課題を具体的に把握するため、特定地域を対象とした人流動向を把握する。事例として、福岡県の主要観光地の1つであり、インバウンド観光需要も大きい福岡県柳川市における人流動向について、「おでかけウォッチャー訪日版」を活用して調査分析を行った。

1 対象地の概要

福岡県南西部にある柳川市は、干満の差日本一で有名な有明海の沿岸に広がる筑後平野に位置する。地域独特の水路である「掘割」をどんこ舟で周遊し、旧城下町の街並みや自然を楽しめる「川下り」や、旧柳川藩の藩主立花家の別邸である「御花（おはな）」、柳川発祥の「うなぎのせいろ蒸し」などの観光資源を有し、福岡県を代表する観光地の1つとなっている。

2 市全体の動向

まず、市全体の動向を確認する。おでかけウォッチャー訪日版では3つの来訪区分「宿泊」「滞在」「通過」を確認できる¹⁾。2023年1月以降の来訪区分「滞在」の来訪者数の推移の指数（2023年平均＝100）を見ると、月別の変動が激しいものの、トレンドと

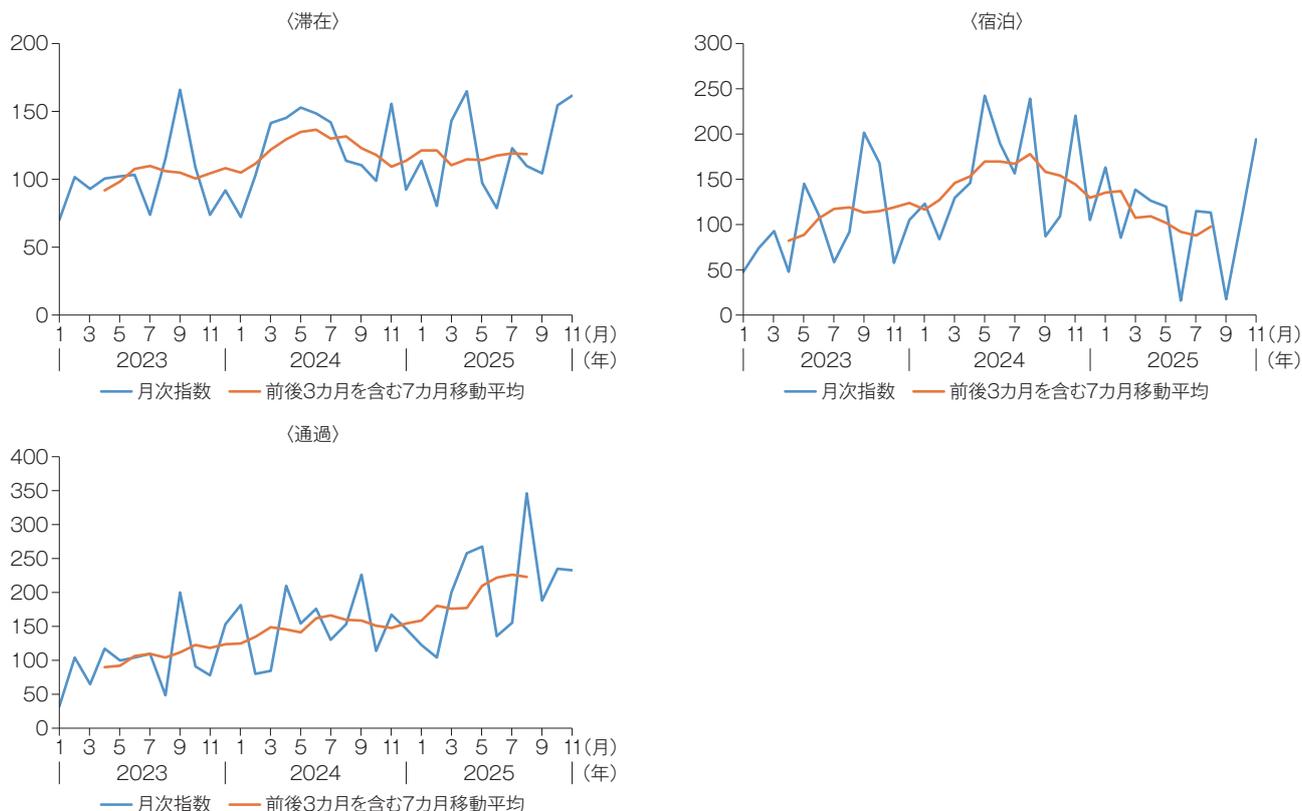
図1 柳川市の主な観光資源



資料) 柳川市観光公式サイト

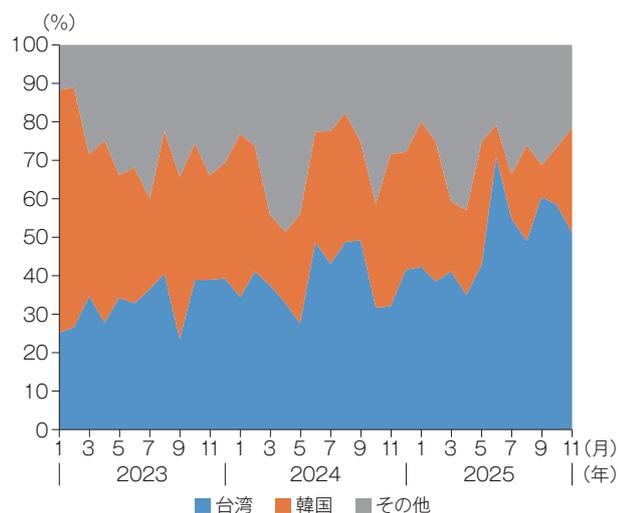
1) 九経調「おでかけウォッチャー（訪日版）」では、集計区分として、宿泊・滞在・通過の区別がある。位置情報ログが同じ市町村内で連続して2回以上記録された場合に「滞在」としてカウントしている。日本政府観光局（JNTO）「訪日外客統計」と最も概念の近い集計区分は「滞在」である

図2 柳川市におけるインバウンド来訪者数の推移（指数、2023年平均=100）



資料) 九経調「おでかけウォッチャー（訪日版）」

図3 柳川市におけるインバウンド観光客の国籍別比率の推移（来訪区分：滞在）



資料) 九経調「おでかけウォッチャー（訪日版）」

しては2024年6月前後に一旦ピークを迎え、その後減少し、2025年に入って再び足元増加基調となっている。「宿泊」については、「滞在」同様の増減傾向である

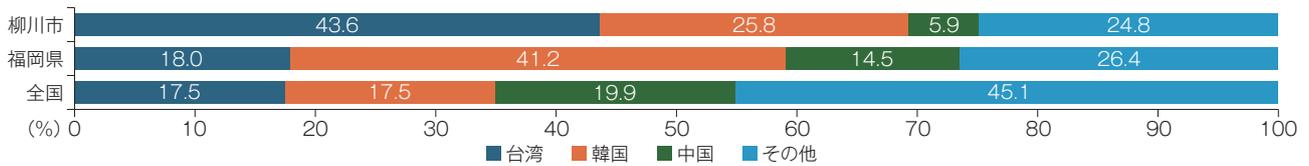
ものの、足元はより落ち込んでいる状況である²⁾。一方、「通過」については、多少の増減はありつつも、一貫して増加傾向にある（図2）。こうしたことから、柳川市のインバウンド観光の現状として、宿泊や比較的長時間の滞在を伴う観光は伸び悩み、比較的短時間で観光を済ませたのちに次の周辺の観光地に移動するという傾向がより強まっていると考えられる。

また、国籍別比率とその推移をみると、2023年時点では韓国が最も大きな割合を占めていたものの、その後台湾の比率が増加し、現在は台湾が最も大きな割合を占めている（図3）。台湾、韓国で全体の50%以上の比率を占める。

2024年1月～2025年11月の累計で、国籍別比率を全国及び福岡県と比較すると、対全国では台湾、韓国の比率が比較的高く、福岡県と比較すると台湾の比率が高く、韓国の比率が相対的に低い（図4）。

2) なお、2024年7月以降の宿泊の落ち込みは、柳川市の主要宿泊施設の1つでもある「柳川藩主立花邸御花」が2024年7月1日から12月までの改修のため休館していたことも影響を与えていると考えられる

図4 インバウンド観光客の国籍別比率の地域間比較（来訪区分：滞在）



注1) 2024年1月～2025年11月の累計
 注2) 全国の数値は47都道府県の数値を合算したものである
 資料) 九経調「おでかけウォッチャー（訪日版）」

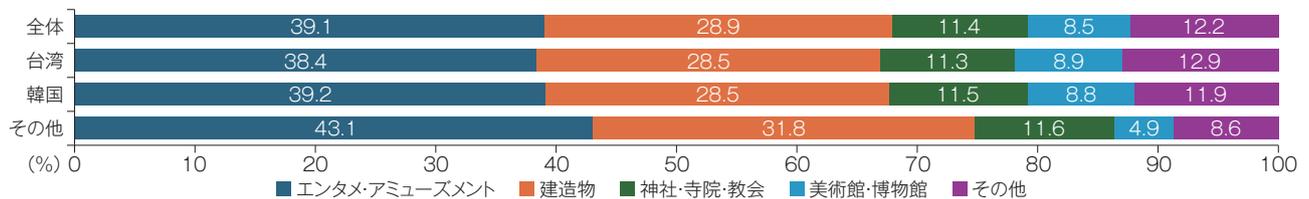
3 観光スポット別の動向

観光スポットのジャンル別の比率（2024年1月～2025年11月の累計）でみると、川下りが含まれる「エンタメ・アミューズメント」が最多で39.1%となっており、川下りが本ジャンルのほとんどを占めている（図5）。続いて、御花を含む「建造物」が28.9%、「神社・寺院・教会」が11.4%と続いている。国籍別の訪問先の違いは大きくは見られない。本格的にインバウンドが回復し始めた2023年以降、ジャンル別比率は大きく変わっておらず、観光行動は同様の傾向が

続いているといえる。

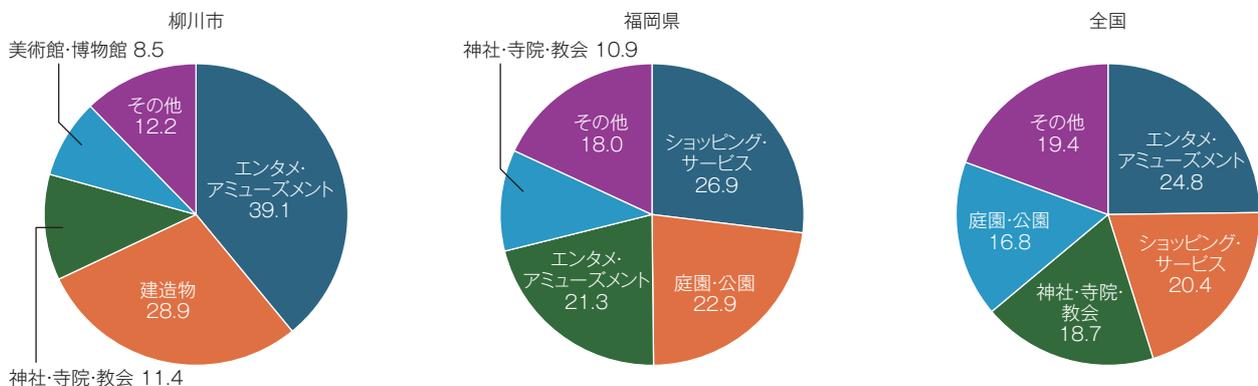
また、福岡県及び全国とのジャンル構成を比較すると、福岡県は「ショッピング・サービス」「庭園・公園」「エンタメ・アミューズメント」、全国は「エンタメ・アミューズメント」「ショッピング・サービス」「神社・寺院・教会」の順となっており、大きく構成が異なる（図5）。こうした構成の違いは地域ごとの観光の特性の違いを表しており、構成比率の大きいジャンルは強みとして、構成比率の小さいジャンルは伸びしろとみることができる。例えば、「神社・寺院・教会」は全国と比較して相対的に構成比率が低くなっている点について

図5 国籍別の観光スポットジャンル別訪問者数の比率（来訪区分：滞在）



注) 2024年1月～2025年11月の累計
 資料) 九経調「おでかけウォッチャー（訪日版）」

図6 観光スポットジャンル別訪問者比率の地域間比較（来訪区分：滞在）



注1) 2024年1月～2025年11月の累計
 注2) 全国の数値は47都道府県の数値を合算したものである
 資料) 九経調「おでかけウォッチャー（訪日版）」

は、柳川市にも多くの立派な寺社仏閣があるものの、主要な観光コースから外れている場合もあり、またその価値を十分に伝えられていないことから回遊を促せていない可能性が高い。

4 前後別周遊の状況

2024年1月～2025年11月の累計ベースで柳川市の直前直後の前後別周遊の状況を確認する（表1）。来訪前後ともに上位5位の市町村は同じ構成となっている。最多は前後ともに福岡市で、来訪前は3割強、来訪後も2割強を占めている。次いで、柳川市に隣接するみやま市が来訪前・来訪後ともに高いが、これは柳川市から最寄りの高速道路ICである柳川みやまICの利用者やJRの最寄り駅である瀬高駅がみやま市に立地しており、これらの交通ルートの利用者が休憩等で沿線店舗に立ち寄るケースで一定時間滞在した場合等も来訪者としてカウントされることによると考えられる。

来訪前と後で大きく異なるのが太宰府市で、来訪前よりも来訪後のほうが圧倒的に多いことから、柳川市→太宰府市の順番で観光周遊が行われていることがうかがえる。これは、柳川市・太宰府市がいずれも西鉄

電車の沿線にあり、福岡市から電車で移動する場合、柳川市のほうがより遠いため、柳川市、太宰府市の順番で周遊の方が利便性が良いこと、また、柳川市の川下りは比較的早い時間に受付終了する店舗もあり、川下りの後に昼食として鰻のせいろ蒸しを食べてから次の目的地に向かうというルートが一般化していることが影響していると考えられる。

続いて、前後の範囲を「前旅程全て・後旅程全て」に拡大した場合、最多は前後ともに圧倒的に福岡市で、来訪前後ともに2割前後を占めている。また、より広域な周遊先として、熊本市や由布市など福岡県外における外国人に人気の観光地がランクインしている。

秋野 隆士（情報研究部 研究主査）

表1 前後別周遊の主な周遊先（来訪区分：滞在）

〈直前・直後〉

来訪前		来訪後	
周遊先	シェア	周遊先	シェア
1 福岡県福岡市	32.6%	1 福岡県福岡市	21.2%
2 福岡県みやま市	15.9%	2 福岡県太宰府市	17.1%
3 福岡県久留米市	14.3%	3 福岡県みやま市	16.4%
4 福岡県太宰府市	6.5%	4 福岡県久留米市	13.3%
5 福岡県大川市	4.3%	5 福岡県大川市	4.2%

〈前旅程全て・後旅程全て〉

来訪前		来訪後	
周遊先	シェア	周遊先	シェア
1 福岡県福岡市	18.8%	1 福岡県福岡市	20.3%
2 福岡県久留米市	4.3%	2 福岡県太宰府市	4.5%
3 熊本県熊本市	3.7%	3 福岡県久留米市	4.1%
4 福岡県太宰府市	3.3%	4 熊本県熊本市	3.3%
5 大分県由布市	2.8%	5 福岡県みやま市	2.8%

注) 2024年1月～2025年11月の累計
資料) 九経調「おでかけウォッチャー（訪日版）」